



## たすきでつなぐ“ふるさと”

11月2日、若狭町10周年を記念した「ふるさと若狭伝大会」が開かれ、一般の部に8チーム、小学生の部に18チームが出場しました。

20.9kmを中学生以上の6人でつなぐ一般の部は、若狭さとうみパークをスタートし、野木小学校まで町を横断するコース。1区間1.5kmの計7.5kmを5人でつなぐ小学生の部は、野木小学校周辺を走りました。

住民の声援を受け、選手たちは懸命にたすきをつなぎました。

[一般の部] ①上中TSC ②若狭消防B ③小浜走友会

[小学生男子の部] ①みそみ小レッド②鳥羽小B ③野木小ストライク

[小学生女子の部] ①みそみ小ピーチ②野木小レインボー・ラン・ガール③野木小ミラクルズ

## 情報共有、大切に

11月9日、野木地区で防災訓練が行われました。朝9時に震度6の地震が発生したとして、各集落センターに一次避難を行い、集落自主防災組織が区長の指示のもと、住民の安否確認を行いました。確認された被害情報は、役場との連絡体制を補完できるように、野木公民館の地域づくり協議会防災安全部会と連絡を取り共有していました。

安否確認終了後、各集落では、消防職員や防災関連のNPOスタッフなどが講師となり、災害の経験談を聞いたり、集落の地盤についてなど勉強会が開かれ、各集落の住民はそれぞれに熱心に聞き入っていました。

兼田集落では、日赤の指導員から救急法やAEDの講習を受け、胸部圧迫のリズムや強度などを確認しながら、一人ずつ順に取り組んでいました。



## 観光地の魅力、さらにアップ

11月23日、若狭瓜割名水公園のあじさい広場で、天徳寺区民や若狭瓜割名水公園管理組合のメンバーなど約60人が参加し、あじさいの植樹作業が行われました。

若狭瓜割エコビレッジ推進委員会では、名水公園を地域住民の手で整備する計画を立てており、今回の整備はその一環として行われました。あじさい広場は、瓜割名水管理組合や天徳寺区民によって管理されており、現在はあじさいが1万株を超えるほどとなっていて、見頃の時期には大勢の観光客が訪れます。

今回は1000株のあじさいを、間隔を広げて500株を植え替えました。陥没した基盤を整え、むらなく配置することによって、毎年6月に行われるライトアップの際にも美しく見えるよう改善されました。早ければ来年からの開花が期待されています。



## 大工仕事に挑戦だ

11月19日、三宅小学校体育館で「伝統建築文化に触れよう」と題した住教育体験講座が行われ、6年生19人が参加しました。

子どもたちはまず、釘を使わずに木を結合する様々な種類の「木組み」の取り外しに挑戦。組まれた木材の前に悪戦苦闘しながら、仕組みに興味津々の様子でした。

次に住文化専門家の国京克巳さんから、チョウナなどの大工道具の説明を受け、宮大工の直井光直さんらの手ほどきを受けながら、実際に槍ガンナでヒノキの板を削ったり、墨つぼを使って木材に文字を書いたりしながら、伝統の技を体験しました。

大工によるカンナがけの実演では、木材が均一の厚さに削られていく様子を間近で見ながら「すごい」と驚きの声を上げていました。



## みんなが支援者となる社会

11月22日、歴史文化館で教育・医療・福祉・行政関係者合同研修会が開催され、福井県立嶺南東特別支援学校教諭の伊藤ゆかりさんと、作業療法士（OT）の吉村真樹さんによる「自力で歩けなかった児童が第一歩を踏み出すまで」と題した発表が行われました。

伊藤さんは教育という分野に固執せずOTと連携をとり、教育と医療を結びつけ成果を上げたことが評価され、第63回読売教育賞特別支援教育部門の最優秀賞を受賞されました。

この日はその実践について発表し、吉村さんは「生徒のライフステージの変化に沿ってリアルタイムに対応できるようになるのが理想」と話し、伊藤さんは「吉村先生から生徒の改善の経過を、足首の角度などといった数値で報告してもらえたことが納得しやすかった。地域が連携しみんなが気持ち良く支援者となる社会をつくりましょう」と呼びかけました。



## 早期解決を願います

11月22日、拉致・特定失踪者問題の早期解決を願う福井県集会在パレア若狭で開かれ、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表 飯塚繁雄さんの講演が行われました。

大韓航空機事故の工作人员を日本人化教育した女性として名前が上がった田口八重子さんの兄・飯塚さんは、幼い子ども二人を残して拉致された家族のこれまでの歩みとその苦しみが語り、北朝鮮との交渉の難しさ、国の対応に対しての思いなどを話しました。

大会の締めくくりには、県内の特定失踪者の家族が順に、一刻も早く家族を取り返したいと訴えました。また、集会終了後には「めぐみ 引き裂かれた家族の30年」が上映されました。

## 拉致・特定失踪者問題の早期解決を願う福井県集会





## いつもありがとう

11月29日、気山小学校で祖父母学級と感謝祭が行われ、見守り隊、読書ボランティア、児童の家族が参加しました。

感謝祭で子どもたちは合唱と合奏を発表しました。発表の後は、「おじいさん、おばあさん、いつもありがとう。これからも勉強がんばります」「見守り隊の方々のおかげで、わたしたちは毎日安全に登下校することができます。読書ボランティアの方々、たくさんの本を読んでいただきありがとうございます。面白い本を知ることができました」と感謝を伝えました。

その後、3兄妹ユニット「一途」によるほのぼののコンサートが始まりました。トークでは会場が笑いに包まれ、歌では、親が子どもを宝物だと思う気持ちなどを伝え、会場一体となって一途の歌のメッセージに聴き入っていました。

## いぎ、全国大会へ!

10月19日に坂井グラウンドで開催された「第31回知事杯争奪ゲートボール大会」の女子ミドルにおいて若狭町(女子ミドル)チームが優勝し、来年5月に宮城県蔵王町で開催予定の全国大会への切符を手にしました。11月10日、河原ゲートボール協会長や出場選手らが町長へ優勝報告を行いました。

大会では、池田町、鯖江市、美浜町、若狭町の4チームで競技しました。男子シニアチームは3位でした。

〈選手のみなさん〉

百田喜代美さん(主将) 竹内紀代さん  
瀬尾良子さん 古崎智子さん 中畑恵子さん  
古崎邦夫さん(監督)



## サルを知り、畑守れ

11月29日、嶺南振興局が主催する「サル被害に強い地域づくり研修会」が鳥羽公民館で開催されました。

若狭地域ではサルによる農作物被害が深刻になっており、今回、サル被害に関する知識や有効な対策を学ぶとともに、地域での被害防止対策を推進しようと、若狭管内の住民や農業生産者、関係者が参加しました。

三重県農業研究所の主任研究員 山端直人さんによる「三重県における地域ぐるみの獣害対策」と題した講演会では、「集落をひとつの農地と意識して、サルを見たら他人の畑であっても必ず追ひ払うこと。餌場の価値を下げることが大切」と話しました。

その後、田上区の畑に場所を移し、サルの侵入防止に効果的な電気柵「おじろ用心棒」や、「エンジン式杭打ち機」の製品紹介が行われました。



## 避難先で、考える

11月23日、三宅地区と野木地区の地域づくり協議会と区長会が、原子力災害時の県外避難先である兵庫県加東市と小野市の各避難所を訪ねました。これは、若狭町防災会議において町長が提案し、若狭町内全集落の避難所に予定された施設を、町民の代表者に視察してもらおうというもので、他の地区・学校区も、11月中の各土日にそれぞれの避難先を訪れました。

災害発生時の避難ルートとなる可能性の高い舞鶴若狭自動車道から中国自動車道に入り、滝野社インターチェンジで一般道へ降り、各施設を順に回りました。

参加者らは、集落の住民に説明ができるよう写真を撮ったり、施設管理者から設備などについて質問をしたりしました。また、移動方法や経路なども地図を見ながら確認していました。



## 災害情報、図上で共有

11月21日、瓜生地域づくり協議会環境安全部会主催の災害図上訓練(DIG)が、若狭消防署上中分署で行われ、瓜生地区の各集落の役員が参加しました。

部会では、各集落での自主防災組織設立に向けて説明会を行って設立を促してきましたが、防災についての関心や知識を、より深めてもらえるようにと企画したものです。

各集落からは、区長をはじめ防災担当者など48人が参加し、若狭消防本部の山口俊明地域防災対策室長の講義を受けた後、用意された各集落の大きな地図の上に、道路や水路、避難に助けが必要な家などの印をつけて行きました。

実際に災害が起こったとき、集落周辺で何が起きるか、どこが危険か、それぞれ気づいたことを出し合い情報を共有していく作業は、共通認識のある部分と曖昧な部分が混在し、意思疎通が難しい様子でした。



## 強いぞ!! かるた

12月2日、今秋に行われたかるた大会で優秀な成績を収めた選手たちが町長に報告を行いました。

○「全国かるた競技北国大会」A級4位、「近畿高校文連小倉百人一首かるた部門」優勝、「北信越高校文連小倉百人一首かるた部門」優勝…坊壱沙美さん

○「学校対抗かるた選手権大会」中学3位…三方中 吉田七海さん、千田紗菜さん、大谷麻緒さん 小学2位…三方小 千田椎菜さん、今川結子さん、西村彩桜さん、今井悠希さん、今井健司さん

○「全国小中学生かるた競技福井大会」小1以下2位…杉浦夏夏さん、小3優勝…藤本蒼依さん、小4 4位…山田悠華さん、小5 4位…山中志保さん、小6 2位…長谷部心優さん



## 体育館が劇場に！



11月11日、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」として「スターダンサーズバレエ団」の公演が気山小学校で行われました。前日からバレエ団員54名が会場入りし、体育館のステージを通常の3倍ほどに広げ、音響や照明設備をセットした体育館は、いつもと全く違う雰囲気になっていました。

1部は、バレエの練習を団員がステージの上で再現し、また、言葉を使わずに演じることなどバレエの手ほどきがされました。

2部は児童を交えての舞台「シンデレラ」。王子さまがシンデレラの靴を持って街へ探しに出、町人が「うちの娘ではないか？」などと靴を履かせてみる場面に児童たちがバレエの動きをつけて登場し、会場に集まった保護者や地域の人からは大きな拍手が送られました。

## アラカルト～こんな催しもありました！



1	2
3	4

- 1 勤労者体育館を主会場として開催された、きらやま収穫祭。講演会や餅まきなど様々な催しがありました。
- 2 三宅小での三世代交流まつり。地域の方と一緒にネイチャークラフトや昔遊びを楽しみました。
- 3 古墳の里リレーマラソン。瓜生小を発着点に18チーム280人がたすきをつなぎました。
- 4 敦賀地区、若狭地区防犯隊連合会練成会（写真は若狭地区）

## 頼もしい消防団



三宅集落では、自衛消防団が不在となる昼間の災害に対応するため、平成11年4月から、三宅第2消防団が結成されており、この日は、3か月ごとに行っている放水訓練を行いました。

第2消防団は、昼間に集落周辺にいる団員10名で構成され、平均年齢は63歳。区の各班から1～2人ずつ選出しているそうです。

独自の放水訓練の他、年に1度は自衛消防団との合同訓練を実施し、横の連携も図っています。

長年同じ集落で生活している和やかな雰囲気の中に、互いの得手不得手を活かし、ポンプ機械の特性を伝えあったりしている様子を、微笑ましさと安心感を感じました。

## アラカルト～こんな報告会、調印式がありました！



1	2
3	4
5	



- 1 「美しい鳥浜を創る会」が北陸農政局豊かなむらづくり北陸農政局長賞を受賞されました。
- 2 「気山区さわやか会」がボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰を受けました。
- 3 「若狭町と福井県民生協同組合の地域見守り活動協力に関する協定調印式」。県民生協が若狭町の独り暮らしの高齢者の見守りに協力。生協の業務中に、高齢者宅などで異変を感じたら町へ連絡していただくようになります。
- 4 「若狭町と立命館大学センター・オブ・イノベーションプログラム研究拠点による研究協力に関する協定調印式」。血圧や心拍数などを測れるスマートウェアと、超音波スピーカーなどを組み合わせて、自然に運動習慣が身につくプログラムの社会実験を、熊川地区で行っていく予定。
- 5 「若狭町きめ細やかな地域交通検討会議」報告書の提示。町内の交通弱者の需要に応じた予約制の公共交通（デマンド交通）について、同会の川本義海会長から町長に提案。平成27年夏ごろからの試行運転に向け検討が進みます。

★住民リポーター随時募集中！お気軽にご連絡ください。

NPOわかさ Reco.Tel: 050-3701-8341 Fax: 050-3730-7496 / Facebook ページ:「わかさのススメ」